



第12回最小侵襲脊椎治療学会(MIST学会)
キトキト!ランチオンセミナー **2**

脊椎関連疼痛を如何にして “いわゆる慢性疼痛化”する のを防ぐか?

座長

石井 賢 先生

国際医療福祉大学医学部整形外科学 主任教授

演者

住谷 昌彦 先生

東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部 准教授

2022年

6月24日(金)

11:50~12:50

第2会場 富山国際会議場 (201+202)

〒930-0084 富山市大手町1-2

本会は「現地開催+ライブ配信」のハイブリット形式での開催となります。

※ライブ配信については学会ホームページをご確認ください。

学術集会ホームページ
<http://mist2022.umin.ne.jp>



認定
単位

専門医資格継続単位:
必須分野【7】脊椎・脊髄疾患 【8】神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む)
いずれか1単位の取得が可能です。
※Web視聴では単位は取得できません。ご了承ください。

第12回最小侵襲脊椎治療学会(MIST学会) キトキト!ランチオンセミナー 2

脊椎関連疼痛を如何にして “いわゆる慢性疼痛化”するのを防ぐか?

住谷 昌彦 先生

東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部 准教授

中等度以上の運動器疼痛が6ヶ月以上持続する慢性疼痛患者は国内人口の15.4%を占め、世界でも腰痛と肩こりを含む頸部痛は20年以上にわたって一般市民の愁訴の最上位を占める。腰痛・肩こりを代表とする運動器疼痛がいわゆる慢性化した患者では身体的健康度だけでなく精神的健康度も著しく低く、痛みがQOLの重大な阻害因子となっている。

したがって、運動器疼痛対策の全体像の中では、このような“いわゆる慢性疼痛化”した重症患者を発生させない取り組みが必要であることは論を待たない。

疾患の発症予防～重症化(慢性化)までの疾患の自然史における対策として、1次予防(疾患の発症予防)から2次予防(発症早期から適切な診療を開始し治癒を目指す)、3次予防(重症化の防止)と段階的な対策が求められ、それぞれの予防フェーズを移行する手引きとなる臨床指標が設定されることが望ましい。

慢性疼痛の問題点としてしばしば挙げられる生物-心理-社会的要因が複雑に交絡した“いわゆる慢性疼痛化”を予防するためには、2次予防において生物学的要因に速やか且つ確実に対応することが必要である。

これまで我々が筋骨格系疼痛に対する2次予防の実現に向けた取り組みから、手術治療を含む治療法全般の適応およびそのタイミングを検討するための評価の取り組みについて発表する。